

## ハイテム

(岐阜県各務原市)

九層のケージで、鶏が次々と卵を産み落とす。ケージは大きいものでは、高さ六尺になり、まるで高層マンションのようだ。倒れれば衝撃で収入源の鶏に被害が出る上、作業員も下敷きになりかねない。養鶏設備メーカーのハイテム(岐阜県各務原市)が提供するのは、地震国・日本に合わせた耐震仕様の設備だ。

きっかけは二〇〇七年の

新潟県中越沖地震だった。最大震度6強の揺れで、設備を供給していた鶏舎が全壊した。幸い、休憩中で作業員はいなかつたが業者には多大な損害を与えた。

同社によると、現在は国内内の養鶏設備で五割を超えるシェアを誇り、日本のトップメーカーに数えられる。だが、当時は輸入け

んだけだった。

再発防止の必要性を訴えたが、「対策は織り込み済み」と取り合つてもらえない

かったためだ。危機感の違ひを肌で感じた安田社長は、「倒れたのは事実。徹底的に対策を考えなければ」と、地元の岐阜大(岐阜市)に声を掛けた。パート

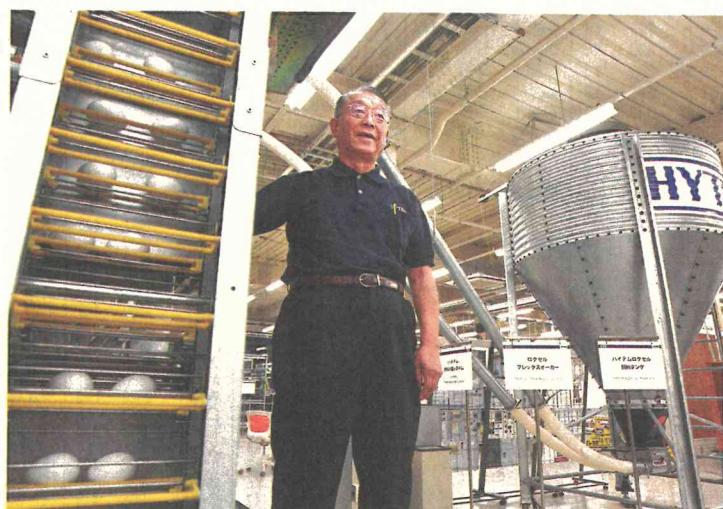
工場を設立した。

ハイテムの安田勝彦社長=岐阜県各務原市で



14

## 養鶏ケージ



養鶏場で卵が割れないケージの開発を進めるハイテムの安田勝彦社長=岐阜県各務原市で

1972(昭和47)年、東京都内に前身の東洋システムを設立。88年に岐阜県各務原市に本社工場を開設し、08年に現社名に変更した。年間売上高は約51億円。従業員は140人。

1972(昭和47)年、東京都内に前身の東洋システムを設立。88年に岐阜県各務原市に本社工場を開設し、08年に現社名に変更した。年間売上高は約51億円。従業員は140人。

ジの卸が主な業務で、製造はドイツメーカーに任せていた。ただ、「考え方の違いがあった」と、安田勝彦社長(52)。中越沖地震を経て、二十二年間続いたこのメークーとの契約を打ち切り、自社製造に切り替えた。〇八年、中国・天津に工場を設立した。

「卵は物価の優等生。利益が多いが、中越沖地震では、非常に少ないので常に需要がある」。業者にとっては、わずかな卵のヒビ割れの発生も事業継続の大好きな足かせになる。そこで、耐震化以外の改良も重ねてきた。生卵を食べる日本では、卵は必ず洗ってから出荷するが、洗浄で殻が弱くなり、ヒビが入りやすくなる課題があった。欧州製では、洗浄の工程を考慮されていないが、同社の設備

ることに成功した。「震度

6強でも倒壊を免れ、若干の補修で済む」

安田社長が次に狙うのは、養鶏の自動化が進む中國や東南アジアの市場。「世界人口の六割を占めるアジアでトップになれば世界一になれる」と意気込む。

(竹田弘毅)